

考えて欲しい。

委員（バス事業者）

制度上は申請・認可が必要となるが可能である。しかし、事業者の実情としては運転手不足という問題があり、便数や路線を増やすことは困難であり、すぐには対応することができない。

委員

現在の計画（素案）を見ると、観光と公共交通の捉え方が漠然としているように感じる。人を育てながらまちづくりと連携した交通体系のあり方を検討すべきである。

委員

市民のほとんどが移動手段は自家用車を主として利用しており、高校生にいたっては最寄りのバス停すら知らないということがアンケート調査から判明している。このような調査結果を踏まえて、計画を策定することが良いと思う。路線やダイヤ変更等のさまざまな対応策はあると思うが、まずは公共交通を利用していない市民にも「公共交通の必要性」を意識付けすることが必要なのではないか。

委員

計画（素案）の方針の中で、デマンド交通を新しい交通手段として取り入れるとある。先ほどの事業者の問題として運転手不足があげられたが、そのような実情の中で取り入れることは可能かどうか疑問に思う。

委員（タクシー事業者）

現在、公共交通不便地域・公共交通空白地域への公共交通として、タクシーの利用が叫ばれている。それが通常の運行形態にかかわらず、デマンド交通や乗合タクシーとなっても協力していきたいと考えている。

委員（タクシー事業者）

計画（素案）を見ると、自家用有償運送も新しい公共交通として取り入れるとある。タクシー業界の公共交通不便地域・公共交通空白地域の解消へ協力する姿勢があることに対し、相反するのように感じる。もっと事業者を利用することも考えて欲しい。

委員

自家用有償運送のなかに位置づけられる福祉有償運送は会員登録した障がい者のみの利用となっており、障がい者の大きな手立てとなっている。利用者が限られ、民業を圧迫することにはならないので、事業者の方にも自家用有償運送のご理解をいただきたい。

委員

経済的にタクシーを利用できない方が多いと聞く。しかし、事業者に料金を低くすることばかりを求めると採算がとれない等の問題が生じる。これからは企業と行政が手を組み、割引料金を設定する等も必要となってくる。
自家用車から公共交通へと利用をシフトさせるためには、何らかの手立てをするべきである。他市では、タクシー料金に対して補助する制度もある。

委員

計画の目標と数値指標を設定するにあたり、現在の数値と目標数値をなぜその値

となったのかという理由も示すべき。

始良市は17の校区コミュニティ協議会があるので、そのコミュニティをもっと活用できるようにすれば、より良いものになるのではないか。

委員 他の委員からもあったが、調査結果から導き出した始良市の公共交通における問題がどういったものかが、今後の始良市の計画方針を定める基礎となるので、次回までには示して欲しい。

議長 計画としての表現について、抽象化して表現する部分が必要となる。今回、委員の皆様からいただいたご意見をもとに、抽象化のさせ方も考え、次回の会議までに計画を作成していきたい。

(2) その他

事務局が今後の地域公共交通会議の予定について説明。

→委員からの質疑はなし。

3 閉会